

受講番号 18060 学校名 横浜中学校 氏名 下元 かおり

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年1組 生徒数 32 名
 科目名 中学2年 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course Book 2

クラスの様子・特徴

2年生になってから教えることになったクラスである。男子も女子も比較のおとなしく、静かに授業を受けている。しかし、一部の生徒を除いて、英語を声に出すことに消極的である。自分を表現することに自信を持っていないように思われる。

問題の確定

全ての技能に関わる音読が十分にできていない。そのために聞くこと・話すこと・読むことが平均より弱いと考えられる。

予備調査

A 授業の観察

語句の練習や音読の時、あまり声が出ていない。特に女子の声が小さく、英語が聞こえてこない。英語の音やスピードに慣れていないようで、聞き取りに難を抱えているように思う。また、語句の意味や英文の意味がよくわからないまま、音読をしている。

B 生徒による授業評価

アンケートから音読を苦手とする生徒が42%いることがわかった。その理由として、単語が読めない(83%)、英文の内容がわからない(58%)、英語をリズムよく読むのが苦手(58%)などが挙げられた。

C 学力データ

CRTの結果より、本校の昨年度の生徒に比べて、聞くこと(17年度73.0 対象クラス70.5)、話すこと(17年度58.7 対象クラス56.8)、読むこと(17年度60.8 対象クラス55.3)が弱いことが数値からわかった。

リサーチ・クエスチョン

一人ひとりが自信をもって、意欲的に音読ができるようになるためにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

リスニング力が強くなれば、語句や文を聞き取ることができ、発音できやすくなるだろう。また、英語のリズムや音に慣れ、語句や文を聞き取ることができるになれば、語句や英文を口に出すことに抵抗がなくなるだろう。

実践1

授業のWarming Upとして、毎時間T/Fクエスチョン(3問)を行った。内容は、前時に学習した本文についてのもや、身近なものを英語で言ったりした。本文の内容をチェックする時は、前時に十分音読して、語句や音に慣れた後にすることにした。毎時間行うことで習慣となり、定着させていくことをねらいとした。チェックは簡単に済ますために、答え合わせの後に、全問正解者に挙手をさせた。

検証1

初めは、全問正解者は少なかったが、回を重ねるにつれて、全問正解者が多くなってきた。(要領に慣れてきたことや問題が簡単だった時もある。)全問正解者 10/2 4人 10/11 6人 10/16 5人 10/18 8人 10/23 12人 10/25 10人 10/30 9人 11/1 13人ただ英語を聞かせるだけでリスニング力は高まるものではなく、音読練習や内容理解の相互作用が必要であるようだ。

仮説2

語句が読めるようになれば、音読の時、声が出やすくなるだろう。また、語句を読むスピードを上げることによって、英語に慣れ、音読のスピードが上がるだろう。

実践2

単語シートとチェックシートを用意した。単語シートは表にページごとの語句(新出語句、既習語句)、裏にはその語句の意味を書き、表・裏交代で語句の練習をするようにした。個人で練習をした後、ペアでチェックシートを使って、読んでいるか、言えているかを確認するようにした。また、ストップウォッチを使って、30秒以内に全部読むという指示もした。チェックシートは誰もが確認できるように、カタカナをふった。

検証2

ペアで練習・確認したりして、ほとんどの生徒が積極的に取り組んでいた。毎時間練習し、徐々に慣れ、単語をすらすら読んだり、言えるようになるということに意識をもち始めた。また、スピードを上げて読むことで、競争意欲も出てきて、生徒のやる気を引き出したように思う。(観察)また、82%の生徒がこの活動が勉強に役に立ち、「前より単語が読めるようになった。」と答えている。(アンケート)

仮説3

英文の意味がわかれば、音読に意欲的に取り組めるだろう。1つの英文が長いと意味をつかむのに、むずかしいと感じるので、英文を短く区切って考えていけば、意味をつかめやすくなるだろう。

実践3

教科書の本文をチャンクできり、意味をとらえる練習をワークシートを用いて行った。わからない所は、ペアやグループで話し合ってもよいことにした。本文の内容確認後、音読の練習を行った。Choral Reading、個人読み、ペア・グループ読みとただ読みを形を変えて、読みの回数を多くした。グループ読みは、時々緊張感を与えるために、全体の場で発表する機会を与えた。

検証3

1文で意味を考えるより、短くチャンクに区切って、考える方が生徒にとって理解しやすかったようだ。音読は、だんだん声が大きくなり、自信が少しずつできてきたように思う。(観察)単元の終わりに、音読テストを実施した。教科書の本文から、30語前後の英文を10秒以内で読むことを目標に行った。ほぼ2/3の生徒が10秒前後で読めた。アンケートから、音読が以前よりできるようになったと感じた生徒が75%いた。

研究の成果

ペアで語句の練習をすることにより、活発に授業に参加する生徒が増えたように思う。誰もが取り組める活動を授業に取り入れることが生徒の意欲を引き出せると感じた。語句や本文の音読でスピードを上げさせることは、英語の速さに慣れることになるし、飽きないで活動に取り組めることにもつながったと思う。また、チャンクで内容を捉えることは、生徒にとってわかりやすかったようである。そして、音読が以前よりできるようになったと感じた生徒が75%いたことはなによりも成果であったと思う。

今後の授業改善の課題

今後は「話すこと」の力を伸ばしていきたいと思う。話すためには自己表現文を充実させることが大切であると思う。スキット作りや教科書の基本文を使って英文を作ることを中心に進めたいと思う。また、Daily Conversation やペアで自由に英語を使って話すなどの活動も取り入れていきたいと思う。新しい活動に時間がかかり過ぎ、練習に時間が十分確保できなかったのが、取捨選択することが課題である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-841-2215

電子メール

yokohama-j@kochinet.ed.jp